

石柱、道標



30、 名 称 しんめいどお 神明通り

設置場所 元町二丁目 皿澤祥志宅前



昔、藩の若侍と町娘おたねの悲話が残る坂道でおたね坂と呼ばれています。この坂の下から本町までは、米屋横町と呼ばれ、勝山一の米問屋があった所とされています。

31、おたね坂と米屋横町さか こめやよこちょう（本町一丁目 玉木印刷前）



33、じんぐうじばし神宮寺橋  
(昭和町一丁目 いしがみ横)  
 このあたりに、明治の初めまで、小笠原氏の氏神八幡神社とその別当神宮寺が建っていたころから、神宮寺橋と呼ばれるようになった。



32、まらいちどお万都通り (本町一丁目 市民活動センター駐車場角)  
 おたね坂を下りて本町より寺町へ入る道路が万都通りで、通称魚横町として人々に親しまれていました。  
 魚横町と米屋横町の交わる十字路には、金燈籠が建っていました。



35、さんけいばし参溪橋  
 (沢町一丁目 久保酒造裏)  
 この橋の側に小笠原氏  
 の家臣、安田参溪の屋敷  
 があったところから  
 参溪橋と呼ばれるよう  
 になった。



34、ひがしごもんばし東御門橋  
 (昭和町一丁目 越前信用金庫裏)  
 この場所に勝山城  
 本丸の東御門があった  
 ところから、東御門橋  
 と呼ばれるように  
 なった。



昭和十年に架け替えられた際、  
正式名になった。



元は富田橋と言ったが、義宣寺の門前にあるところから、義宣寺橋とも呼ばれた。

37、ぎせんじばし 義宣寺橋

(栄町三丁目 義宣寺前)



36、だいにんじばし 大蓮寺橋  
(沢町一丁目 一本義横)  
牛首街道の通行人の  
ために古くから架けら  
れていた橋で、側に  
大蓮寺があるので  
大蓮寺橋と呼ばれた。



鶴の嶋と呼ばれたことから  
この名がついたようだ。



この辺りから対岸中島へ渡し舟が出ていた九頭竜川に大きな中州がありこの中州を

39、う しま わた あと  
鶴の嶋の渡し跡

(立川一丁目 九頭竜川堤防)



38、いし ばし  
石橋 (栄町二丁目)



40、道標ひょう

(元町三丁目 石塚宅前庭、  
笠川クリーニング交差点前)

約二五〇年前、平泉寺と

大野市の阪谷との分岐を示す

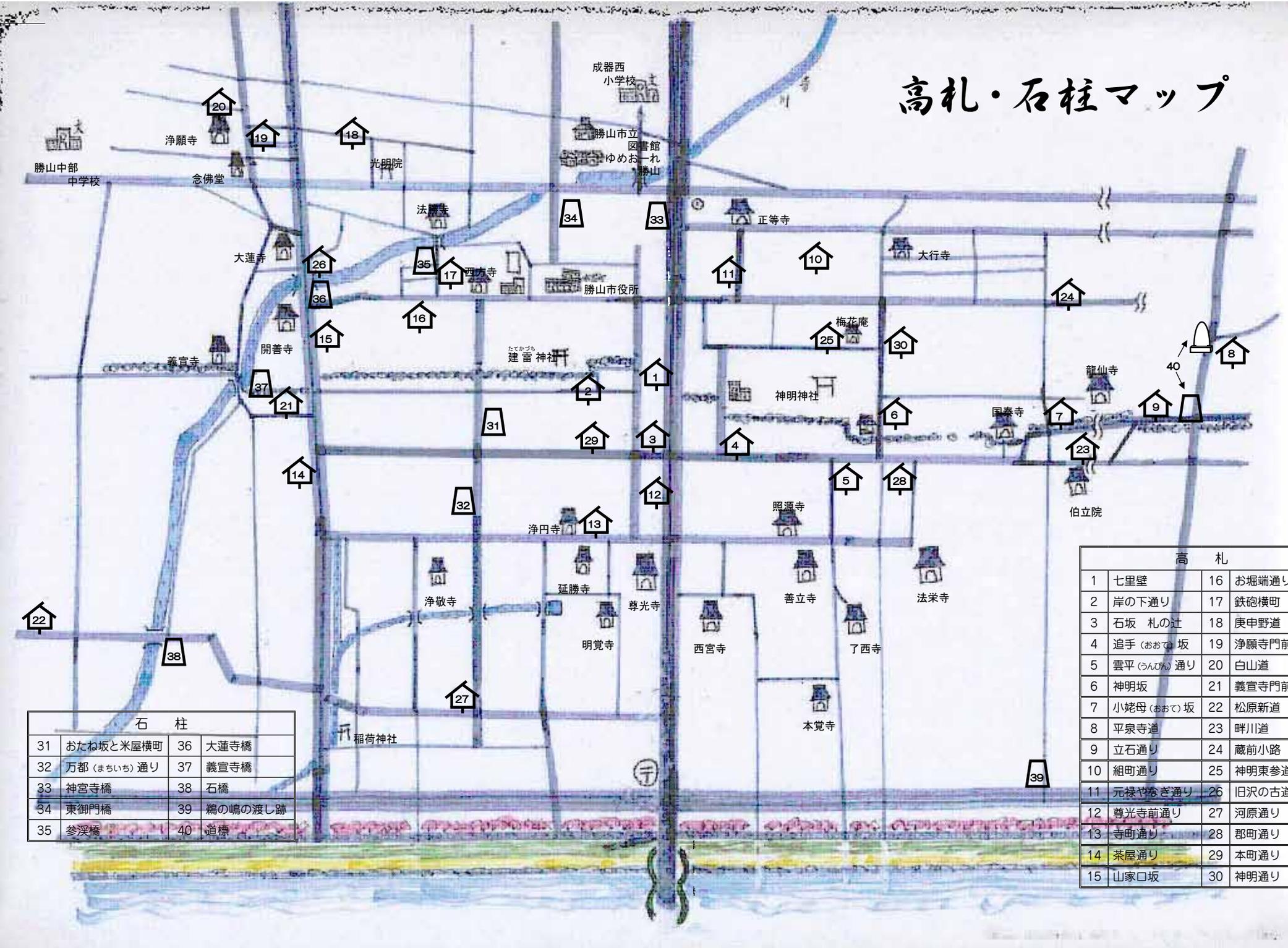
道標で、正面に「平せんじ道」、

右側面に「坂谷みち」、背面に

「宝暦四甲戌六月二十日」と

刻まれている。

# 高札・石柱マップ



石 柱		
31	おたね坂と米屋横町	36 大蓮寺橋
32	万都(まちいち)通り	37 義宣寺橋
33	神宮寺橋	38 石橋
34	東御門橋	39 鶴の嶋の渡し跡
35	参溪橋	40 道標

高 札			
1	七里壁	16	お堀端通り
2	岸の下通り	17	鉄砲横町
3	石坂 札の辻	18	庚申野道
4	追手(おおて)坂	19	浄願寺門前通り
5	雲平(うんび)通り	20	白山道
6	神明坂	21	義宣寺門前通り
7	小姥母(おおて)坂	22	松原新道
8	平泉寺道	23	畔川道
9	立石通り	24	蔵前小路
10	組町通り	25	神明東参道
11	元禄やなぎ通り	26	旧沢の古道
12	尊光寺前通り	27	河原通り
13	寺町通り	28	郡町通り
14	茶屋通り	29	本町通り
15	山家口坂	30	神明通り

歴史の道

町なか高札・石柱を訪ねて

発行 勝山地区エコ推進協議会

勝山市エコミュージアムわがまちげんき発展事業

高札文章 丸屋仁志氏（勝山市文化財保護委員）

高札文字 榎家嘉男氏

石柱 勝山地区エコ推進協議会

勝山市都市政策課

道標 不明

表紙題字 杉下君枝氏

協力 勝山公民館

発行日 平成二十三年三月